クリスチャン新聞
THE CHRISTIAN

1990年5月6日発行（毎日曜日発行）

5.6

発行©クリスチャン新聞 ☎03-291-8524㈹
〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1 FAX 233-4564
（大阪支局・大阪市北区梅田3-2-14 ☎06-348-0562 FAX348-1640）
発売いのちのことば社
昭和35年12月10日
第3種郵便物認可
通巻第 1146 号

1部 165円（本体価格160円）
予約購読料（1部につき送料・税共）
6か月 3,960円 1か年 7,920円
海外（非課税・送料共）1か年
船便（各国共通）13,000円
航空便（地帯別）16,000円～20,000円
振替口座東京5―101512番
クリスチャン新聞
※各種口座自動引き落としもできます

□聖書信仰の確立
□宣教のビジョン
□健全な教会成長
□実際生活の指針

いのり

別れん！ 別れん！
古きこの世に／われはもはや、なれを要せず／汝が与う、すべてにまさりて、神ぞ慕わし！
オズワルド・スミス

親しまれて25年…新改訳聖書
カラー
聖書地図が付きました。
スタンダード版
旧新約聖書 NBD-22 B6判（黒・白・茶・赤・緑）
各定価 4,200円（本体4,078円）
日本聖書刊行会
「カセット聖書」テレホンサービス ☎03-295-7987

ロゴスII世号出航

福音文書積み東欧へ

改修遅れの試練、最善の時期に

キリスト教文書と奉仕者を乗せて世界各地の港を巡航伝道していたOM（オペレーション・モビライゼイション）の福音船ロゴス号が、チリ沖で座礁・沈没してから二年余り。各国のクリスチャンの支援で購入したロゴスII世号の改修がこのほど完了、四月二十三日、アムステルダムからロンドンへ向けて出航した。イギリス、ドイツ、デンマーク、フィンランドへ感謝のあいさつに立ち寄った後、東欧とソ連を訪問する。

完成したロゴスII世号

ロゴス号は十七年間に百三か国、四百一港を訪れ、キリスト教文書の頒布、船上での集会、訓練会などに約七百五十万人を動員した。頒布されたキリスト教文書は約五千五百万冊に上る。日本にも数度寄港し、横浜、神戸、福岡、長崎、沖縄などを訪れた。

同船は世界各国の青年を乗せ、聖書に基づいた教育・訓練をし、各国の港に寄って国際交流を深めながらキリスト教図書を展示・販売するなどして福音を伝えてきた。こうした働きは、宣教師の入国を禁じている国々に福音を届ける手段として、また世界のクリスチャン青年が起居を共にしながら福音による交わりと伝道をすることにより、深いきずなで結ばれる点などで高く評価されてきた。日本からもこれまでに十数人の青年がこの働きに加わっている。

一九八八年一月、チリ沖で座礁。乗員百四十一人は全員無事救出されたが、船は使用不可能の損傷を受けた。このニュースに、世界中のクリスチャンからロゴス号に代わる船のための祈りと支援が集まった。八八年九月にスペインの中古カーフェリー（全長一一〇メートル）を約二億五千万円で購入、改修作業のためオランダ・アムステルダムへ回航していた。

完成までに集まった献金、献品は、五十か国以上、改修のために参加した奉仕者は千三百人に上る。船の購入費と修理、改造、整備のための費用として総額約七億円を要したが、これまでに九割方が集まり、あと五千万円を必要としている。

日本でも尾山令仁師（聖書キリスト教会会長）を実行委員長にロゴスII世号募金委員会が組織され、世界宣教の一環として必要額の七分の一にあたる一億円をささげたいとして、協力を呼び掛けていた。今年三月までに集まった募金は千六百七十六万余円。四月以後の献金は、ロゴス号の働きも含めてOMあてとすることにしている。

II世号完成までには幾度かの試練がついて回った。八八年十月には、改修のためアムステルダムへ向かう途中、嵐（あらし）とエンジン、発電機の故障により、到着が大幅に遅延。当初八九年八月の完成を目指していたが、今年四月にずれ込んだ。今回完成に際しても、出航直前に発電機が故障し、動力の一基を交換しなければならなかった。

しかし度重なる試練を経験しながらも、OMのスタッフは、すべてが神のみ手の内にあることを信じ、感謝している。「この時期でなければ東欧の訪問は実現できなかっただろう。そして、多くの試みを経たいま、更に訓練されたチームが備えられた」と。

ロゴスII世号は、二十九か国から百九十人の奉仕者を乗せ、同船の完成に多大の援助を惜しまなかったイギリス、ドイツ、デンマーク、フィンランドに感謝のあいさつに立ち寄った後、東ドイツ、ポーランド、ソ連（ラトビア、エストニア含む）に巡航。アフリカ西海岸を経て、ロゴス号の事故により中断していた南米へ向かう予定。

不良高校生の回心から広がった世界宣教

日本OM事務局を開設

新しいロゴス号を就航させたOMだが、四月二十四日、日本OM事務局（オペレーション・モビライゼイション）が発足した。これは、三十余年の歴史をもち、欧米ではよく知られ福音的教会によって支えられているOMの働きを日本に紹介し、将来的には、日本での主体的な活動も目指すための発足。

二十四日、東京の聖書キリスト・高田馬場教会での理事会で、初代主事として今永英俊氏（単立・弘前キリスト教会員、7面に関連記事）を立て、尾山令仁理事長（聖書キリスト教会会長）らによる理事会を組織した。

◇

OMの働きとして、福音船ロゴス号、ドゥロス号による訓練と伝道の働きが日本でもよく知られているが、ほかに、夏のヨーロッパでの広域チーム伝道である「ラブ・ヨーロッパ」や、イスラム教徒への伝道、イスラエル伝道、共産圏伝道、世界各地での開拓伝道などを行っている。

OMの創設者、リーダーのジョージ・バーワー師は三十五年程前、アメリカ・ニューヨーク近郊の高校生だったとき回心した人物。彼の学校は、あまり環境の良くない地域にあり、問題のある生徒も多くバーワー師もその一人だった。「もし、イエス様に出会わなかったら、私は今ごろ、やくざみたいな者になっていただろう」と彼自身語っている。

ある老婦人が「この学校の生徒たちを主がお救いになるように。彼らが福音の伝達者として世界の果てまで出かけて行くように」と十五年間祈り続け、校門でトラクトを配ったり、生徒に話しかけて知り合いになって伝道していた。バーワーはその最初の結実だった。彼の証しを通して二百人の生徒が主を信じた。バーワーと何人かの友人はカレッジに進学してからも共に祈り合い伝道していた。そして、休暇を利用してメキシコへ伝道に出掛ける。そこで人々の必要を知った彼らは再び祈り始めたが、メキシコ初のキリスト教書店の開設、福音放送の開設が実現。更に多くの人々が福音宣教へのチャレンジに巻き込まれていき、これがOMの働きの発端となった。

伝道訓練「ラブ・ヨーロッパ」の実践風景

このようないきさつについて日本OMの理事の一人である三森春生師（インマヌエル・王子教会）は、「日本でも校内暴力が問題となっている今、この証しは大きな挑戦。本来は、日本で若い人々の間から、このような活動が発生すればいいのだが、まずは、OMの働きに参加させてもらおうということです」と語る。

今永氏は今後、要望に応じて全国を回り、OMについて説明する。来年または二年後に、ドゥロス号が来日することが正式に決まれば、そのことについても説明する予定。

尾山理事長は、「教会に理解され、支えられる働きにしたい」と抱負を語っている。

尾山理事長以下理事会メンバーは奥山実副理事長（宣教師訓練センター所長）、菊池良一常任理事（同盟基督・小竹町聖書教会牧師）、ピーター・ホーン常任理事（クリスチャン文書伝道団代表）ほか。

欧州で伝道訓練と実践、参加者募る

四十か国から集まった六千人の若者が、ヨーロッパ各地に十人ずつのチームになって散らされて伝道を展開する「ラブ・ヨーロッパ」への参加を、日本OM事務局では呼び掛けている。

日程は七月二十一日から八月十八日まで。最初の一週間はベルギーのゲンクで、国際チームで伝道するための学びや訓練、祈りと音楽の集会をする。ブラザー・アンドリュー師らが奉仕に当たる。昨年の講師はルイス・パラウ師だった。その後チームに分かれて伝道に出掛ける。

参加資格は二十歳以上のクリスチャン。英語は日常会話程度。費用は往復航空旅費に加えて、現地での滞在費（交通費等も含む）約六万円。

「異文化の中で、違った国から集まった主にある兄姉と共に働くことは、有益な訓練です」と尾山師らは語る。

〈日本OM事務所〉〒171東京都豊島区高田三ノ九ノ六、聖書キリスト教会内、☎03・989・1350番（現在のところ仮事務所）。

フェリス学長宅銃撃

弓削学長「言論への暴力と闘う」

大嘗祭（だいじょうさい）反対の声明を四人のキリスト教系大学学長の連名で発表したフェリス女学院大学の弓削達（ゆげ・とおる）学長宅に四月二十二日夜、銃弾が撃ち込まれる事件があった。

事件後、福田歓一・明治学院大学学長は新聞社のインタビューに答えて次のように語った。

「日本には天皇制というタブーがあって言論の自由がないことを身をもって知った。内面の自由、思想の自由、表現の自由が奪われる状況が深化していく中で危険を覚悟しつつも声明を出さなくてはならなかった。大嘗祭など政教分離の原則がこっそり侵犯されるような動きに対して黙っていられなかった。キリスト教に対する戦時下の迫害、学問に対する制約などの歴史を繰り返すわけにはいかないからだ。我々の考え方に反対する声については論争は論争としてきちんと反論していくつもりだ」

国際基督教大学（渡辺保男学長）は、この事件に関して「遺憾（いかん）である」とし、関西学院大学（柘植一雄学長）は「経過を慎重に見守りたい」としている。

一方、弓削学長及びフェリス女学院は当初、報道関係者へのコメントを差し控えていたが、二十五日の犯人逮捕後、弓削学長は各新聞社のインタビューに答えて「これで事件が終わったとは思わない。今後も言論に対する暴力と闘っていく」と語った。二十二日の事件後も学長宅には「声明を撤回しないと、今度はダンプカーを突っ込むぞ」といった脅迫電話が掛かってきたり、はがきが届いたりしているという。

また、日本キリスト教協議会大嘗祭問題署名運動センター（大島孝一運営委員長）は次のようにコメントした。

「声明文を出しただけで銃弾が打ち込まれる。いつこのような事が許される世の中になったのか。私どもは思想・信条・言論の自由がおびやかされたり、かつて日本が天皇の名のもとに侵略戦争を良しとした歴史を繰り返さないために署名運動をしている。体制批判をする人は〝変わった人〟として暴力で封じ込めようとする動きに対し憂慮と怒りを覚える。今、黙っていることは、それを認めることになるのだということを、私たちは知らなければならない」

「過ち繰り返すまい」

日キ教団議長談話

四月二十二日起きた弓削達（ゆげ・とおる）フェリス女学院大学学長宅銃撃事件に関し日本基督教団（辻宣道総会議長）は、四月二十五日付で教団議長談話を発表した。

この事件に対する深い憂慮を示すと共に、一九八六年十一月の第二十四回総会で提出された「大嘗祭を国による行為とすることは違憲である」という議決と、一九八八年十一月の第二十五回総会で採択された「日本基督教団の声明」に触れ、戦時下、強力な天皇制国家のもとで何の発言もでないまま誤った国家の方針に服従してしまった苦い経験を決して繰り返さないという決意を確認。天皇制問題に触れることに有無を言わせず暴力で圧殺しようとする動きへの憤りを表明し、大嘗祭を国の行事として国がこれにかかわるべきではないこと、国がこれから手を引くことを強く呼び掛けている。

「否を否」と言い続けよう

NCCが見舞文

日本キリスト教協議会（竹内謙太郎議長）と日本キリスト教協議会大嘗祭問題署名運動センター（大島孝一運営委員長）は、四月二十二日起きた弓削達（ゆげ・とおる）フェリス女学院大学学長宅銃撃事件にあたり四月二十四日付で学長あてに、お見舞いとあいさつの文を送った。

その中で本島等・長崎市長の銃撃事件に触れ、「即位・大嘗祭」に批判をもって活動している者に対する〝挑戦〟であるとし、天皇制が暴力を伴うタブーによって維持されていることを示唆していると指摘。このような事件によって論調をゆるめることなく「然（しか）りを然り、否を否」と言い続けることによって、この時代に証しをし、国内外の心ある多くの人々と共に「即位・大嘗祭」に批判の姿勢を持ち続けていきたいとしている。

花の万博

統一協会パビリオン

資金集めも中止

詐欺まがいと苦情殺到

【大阪支局】花の万博（大阪市で開催中）に出展しているパビリオンで統一協会とかかわりがあると見られている「の～んびり村」（出展・未来志向型企業グループ、川合善大代表）では、花博協会からの要請を受けて問題とされていた名簿の収集を四月十六日で中止していたが、今度は資金集めと見られていた一口オーナー（一口三万円の出資金で優先的にパビリオンに入れる）が、「詐欺まがいの花博便乗商法」と苦情が続出、資金集めを中止し、今までに集めた約九十口分も返還されることになった。

一口オーナーは、パンフレットによると、①の～んびり村に関係者入口から入館でき、コンパニオンがVIPとして案内してくれる②同館のVIP室が利用できる③他のパビリオンにもVIP待遇でコンパニオンが案内する④同館の未来レストランで食事を用意する、などとなっている。

問題となっていたのは、どこでも希望したパビリオンに行列しなくても優先入館できるなどと説明して出資者を募っていたこと。実際には、コンパニオンが他のパビリオンの前まで案内するだけ。出資した人たちは、人気パビリオンに並ばずに入れるのならと出資したという。

また、同パビリオンの最大の売り物の一つであった「桂由美幸福の家」（デザイナーの桂由美さんデザインのウエディングドレスを着て記念写真が撮れるコーナー、有料）も「運営がいい加減で、これ以上協力できない」との～んびり村から手を引くことになった。桂由美さんの撤退は、の～んびり村の工事が開幕直前までかかったことや、再三資金集めや名簿収集で新聞紙上を賑わせたことが原因。

同パビリオンの主な出展は、統一協会の提唱する日韓トンネル計画を含む国際ハイウェイ構想のアニメだけになった。これで名簿集めや資金集めがかなり困難になったが、開幕前から協会本部に要望書などを提出して反対運動を続けてきた日キ教団原理対策委員会や被害者家族の会などでは、依然不明瞭な点があることから同パビリオンが統一協会の宣伝に使われたり、新たな洗脳活動の場となることを警戒している。

●5月13日号は休刊します

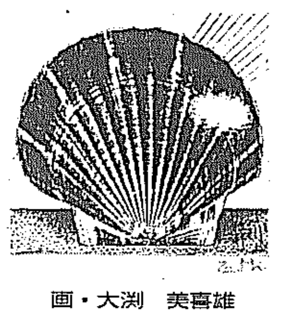
山上の説教

内田 和彦 27

「怒りからの解放」

腹を立てることは全部罪なのでしょうか。「ばか者」と言うことが人殺しと同じなら、他の人を批判することも一切許されないのでしょうか。そうではありません。

主イエスは明らかに柔和な方であり、愛にあふれてご自分を与え尽くされましたが、怒ることもありました。安息日に良いことをすることまで禁止し、主を訴えようとしていたパリサイ人たちを「怒って…見回し、その心のかたくななのを嘆」かれた、とマルコ三・5に記されています。またマタイ二三章では、何回もパリサイ人と律法学者を盲目で偽善者だと呼んでいます。さらに、ご自身の復活を信じない弟子たちに対し、「ああ、愚かな人たち」と嘆いておられます（ルカ二四・25）。



画・大渕 美喜雄

主は怒りました。罪や不義や偽善に対する義憤です。それは正当な怒りです。また、主イエスは人を見下したり、軽べつしたりして、「愚かだ」と言ったのではありません。批判のことばも、無私の愛と真理から出たものです。

私たちも虚偽や悪に対し怒らないとしたら、真理を愛しているとは言えません。正しいことは正しいと主張することも必要です。しかしまた、気をつけなければなりません。私たちの場合、正義の怒りだと思っていても、案外罪に対して怒っているのではなく、自分のプライドが傷つけられたり、自分の思い通りことが進まないため立腹していることがあるからです。自分を正当化するため、正義の味方を装うことが少なくありません。

私たちは自分の力で不当な怒りや軽べつ心から自分を解放することができません。しかし、私たちの思いやことばも裁かれる神の前に自分の罪深さを告白し、そのような自分をもゆるし受け入れて下さる神の愛を繰り返し経験することができます。また、人として正しく怒りをコントロールし、真理のために闘われた主イエスに心を明け渡す時、変えられて行くのです。それがキリスト者の義憤なのです。（草加福音自由教会牧師）

落穂抄

午後六時から九時まで、その貸室が、ユニークな神学校教育の現場となる。現在生徒数三十人、この四月に始まったばかりのこの宣教学院は、昨年秋以来、ないないづくしで始まったが、今、教室では、日本の救霊のビジョンに向けて、静かな情熱を肌で感じるような授業が始まった◆〝日本をイエスへ〟（JESUS TO JAPAN）をモットーにJTJ宣教学院（岸義紘代表、中野雄一郎校長）は発足した。四月十五日に教室でもある東京・西早稲田の早稲田奉仕園で行われた入学式では、開校に至る涙のエピソードが次々と紹介された。入学試験の日、貸室の時間切れで後半の面接試験が近くのラーメン屋の二階で行われた時には、受験生に将来への不安が走ったという。それでも、牧師コースに八人が、信徒伝道者コースには二十人が入学した◆新しい宣教学院開校のビジョンは昨年十周年を迎えた「青年宣教大会」（ミッション二〇〇一主催）で発表された。一％に満たないクリスチャン人口という日本の宣教の壁を前に、青年の訓練と献身を目指してきた青年宣教大会のビジョンは各地に広がった。弟子づくりのための生きた神学教育計画は、その中から生まれた◆JTJ宣教学院は、自らの施設も財産もない。講師陣も教派の壁を超えて、良く言えば実に多彩だが、「やって行けるの？」という不安の声もあった。それでもその〝宣教への熱い思い〟が若い魂をとらえた。教室で学ぶ人々は三十人余だが、授業内容をビデオで送る通信教育部には百人以上が申し込み、十の分校が各地に開かれるという◆カリキュラムは聖書を徹底して学ぶという姿勢に貫かれている。「毎日目が開かれる思い」と、授業に出ている会社社長はその熱気を伝える。開かれた神学校教育を目指すというJTJは、信徒の生きた聖書の学びをしたいという飢え渇きを切実に受け止めている。

主な記事から

JTJ宣教学院開校 （2面）
ソ連、信教自由法案作成 （3面）
焦点 ネズミ捕り裁判判決 （6面）

世界の飢えた人々に食糧と愛を!!
日本国際飢餓対策機構
献金の振込は郵便振替 東京7-68590
〒164 東京都中野区本町5-10-5 ☎03-383-7611

HEALTH 健康福寿源
天然の万能薬プロポリス
偉大です。自然の力！
子宮筋腫と診断された私は、「健康福寿源」を紹介され、愛用して三週間後、大量の出血があり、それと共に全身を縛りつけていた肩凝りもすっかりひいてしまいました。三種混合保健飲料水は、私の健康生活に欠かせないものとなりました。
東京都 主婦46歳
●資料請求およびご相談は
株式会社 自然化粧医学会 代表取締役 井上 浩郷
〒223 横浜市港北区日吉本町2-44-18
☎044-61-0056（代） 振替 横浜9-2914

いのちのことば社 最新刊 〒160 新宿区信濃町6 03(353)9345 ／いち早く出版情報をお届けする いのちのことば社テレフォンニュース 03(357)8793

野口 誠
聖書ギリシア語入門
読めるようになる！
聖書を原語で読んでみたいが、語学は苦手で……という人にピッタリの本。この1冊をマスターすればギリシア語聖書が読めるようになる。
A5判上製 2100円〒260

みことばのメディテーション
祈りの詩篇
音楽 佐藤豊久 2100円〒175
5月中旬発売
美しい音楽をバックに、祈りの詩篇が語られる黙想のためのテープ。

堀越暢治（基督長老四日市教会牧師）
新版 教会生活入門
●すぐに実行できる具体的提案
信仰生活を送るうえで知っておくべきことを一冊にまとめたハンドブック。教理篇／生活篇／他の宗教・思想に対する弁証／伝道篇の四篇から成り、伝道・新宗教等に関し、現代の動向を見きわめて大幅改訂。イラスト入り。
B6判 1700円〒260

イゾベル・クーン
神を求めた私の記録 新版
●求める者に鮮やかに答えられる
著者は、中国の奥地伝道に献身した婦人宣教師。信仰の危機に陥った若い日の、失恋や失敗など、人間的な弱さを包み隠さず語り、不信感の中から神様の愛を見出すまでを感動的につづった名著。
B6判 1300円〒260

有賀喜一
イエスから目を離さないでいなさい
●ヘブル人への手紙 ペテロの手紙第一 講解
「ヘブル人への手紙」を通して聖められたクリスチャン生活について、「ペテロの手紙」から神様の恩寵について語る。みことばをことごとく今日のクリスチャンに当てはめて説き明かしていくので、信仰生活の実際の指針となっている。
B6判 1500円〒260

フランシス・A・シェーファー
長島 勝訳
聖書の基本教理の学び
●シェーファー博士のユニークな教理テキスト
聖書の神／キリスト／救い／聖化など、聖書の重要な25の教理を自分の手と目で学ぶので、不思議なほど身につき、自分の信仰を聖書から確信し、また明快に説明することもできる。
A5判 1150円〒260

稲垣久和（クリスチャン新聞解説委員）
大嘗祭とキリスト者
11月に向けて備えを！
天皇を神格化・絶対化する儀式は、聖書の信仰と真っ向から対立し、無視できないもの。あきらかに偶像礼拝である、との立場から大嘗祭を詳しく解明する。充実した用語解説に加え、図版等多数。
A5判 1000円〒260

勝本正實（初石聖書教会牧師）
日本の宗教行事にどう対応するか
詳しく具体的に指針を示す
キリスト者として、仏教や神道の習慣に流されないためにしっかりとした心がけを持ちたいもの。ひな祭りやお盆などの年間行事、葬儀等、日頃直面し悩まされる事柄を網羅し、とるべき姿勢を具体的に示した。
B6判 1030円〒260

ある英国の説教者（著）
湖浜 馨訳
主よ、みこころを教えてください
『祈ることを教えてください』の著者による待望の第2作目
〝神のみこころ〟それは、罪に勝利した生活をクリスチャンが送ること。小さな罪に悩み、感情の起伏に支配された敗北の日々に決定的な解決を与え、みこころ通りに生きるための秘訣を語る。
B6判 1500円〒260